

2019年1月7日

報道関係各位

**2019年 年頭社長挨拶(要約)**

**株式会社ツムラ**

株式会社ツムラ

コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ 担当：瀬戸 純

TEL 03-6361-7100

## 漢方が人々の健康に貢献し続けられるために ～誰からも信頼される“人”の企業集団へ～

新年あけましておめでとうございます。

2019年の干支は己亥です。己は「紀」という字に通じ、「筋を通す」「紀律を正す」ことを意味し、亥は「核」という字に通じ、植物が実をつけ生命のエネルギーを凝縮・蓄積している様子を表します。総じて己亥の今年は、内なる充実をはかり基盤を固め、次なるステージへ向け、真の「実力」を蓄える年と言えます。当社も、内なる充実、会社の基盤を固めるということが2019年の大事なテーマとなります。私は常々「会社の成長は組織の成長でしかあり得ない」「組織の成長は『人』の成長でしかあり得ない」と話しています。つまり、組織の基盤である「人」こそが、会社の基盤となります。

会社の基盤となる「人」については、長期経営ビジョンである2021年ビジョンにおいて“人”のツムラとして掲げています。目指す姿は、「世界に手本のない“漢方”ビジネスにおいて、自らが新しい道を開拓でき、誰からも信頼される“人”の企業集団」になることです。どの組織においても、自ら道を切り開き、自分たちで考えられる人財でなければ私たちの発展はありません。一人ひとりの実力が底上げされることで“人”のツムラを実現できるのです。

当社は1月に「ツムラアカデミー」を設置しました。組織の基盤である「人」、その中でも組織を成長へと導く経営を担う人財が、基本理念に基づき理念経営を実践することが大切だと考えています。グループ全体に理念が浸透することを原点として、理念に基づく経営を実践できる経営人財を連綿と輩出していくことが求められます。“人”のツムラを実現するためにも、「ツムラアカデミー」が果たす役割は大きくなると考えています。

創業者である津村重舎は「漢方の復興」を目指し、良質な薬剤を得るための薬草園と薬理を解明するための研究所を創設しました。二代目重舎は臨床データの集積に着目し、漢方診療所を開設しました。今でいう「エビデンスの構築」です。その後、1976年（昭和51年）に医療用漢方製剤の薬価基準収載という形で「漢方の復権」を成し遂げ、二代目重舎はこれを「漢方の花ひらく」と言い表しています。薬草園、研究所、診療所の三機関が、今日の「漢方の復権」に大きく貢献し、「漢方を科学する」という当社の社風につながったのです。

昨年4月に当社は創業125周年を迎えましたが、私たちは経営理念や企業使命に宿る先人たちの想いを受けとめ、自ら体現していかなければなりません。今度は私たちが、漢方の永続的な発展、すなわち「漢方の実結ぶ」を目指さなければならないのです。「漢方の花が開き、やがて実を結んで種がつく、それを蒔いて芽が出て、また花が咲く」。つまり、漢方が永続的に患者様の健康に貢献し続けられるようにすることが、私たちのやるべきことです。

以上